

## 別紙 5

米国国際貿易委員会 (USITC)

「違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業由来の  
水産物：米国の輸入と米国商業漁業への経  
済的影響」(2021年2月)の要点

**WWF**

**Report Highlights**

## ■ IUU 輸入水産物の状況

- 委員会は、米国が 2019 年に違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業に由来する水産物を 24 億ドル相当輸入したと推定している。
- 米国の主な輸入元のうち、中国、ロシア、メキシコ、ベトナム、インドネシアは、海産物捕獲の IUU 輸入品を米国に比較的多く輸出していると推定される。
- IUU 魚種は魚粉や魚油の原料として使用されることが多く、水産養殖産業の飼料として利用されている。
- 主な貿易国のうち IUU 輸入品の割合が最も高かったのは、フィリピン (33.0%) とメキシコ (25.1%) であった。
- 水産物輸出国の多くは、様々な漁船からの漁獲物を加工しているため、他国の IUU 漁業による製品が混入する可能性がある。
- タイからの輸入品のうち、タイの漁船で漁獲・生産されたものと推定されるものは 45%以下である。タイからの輸入品のほとんどは、他国の漁船団で捕獲され、タイで加工されたマグロである。
- またタイは、強制労働や児童労働による生産があると米国労働省に指摘されており、米国国務省による「2019 年人身売買報告書」では Tier2 の国にランクされている。さらに、タイは現代の奴隷制のリスクが高い国と分類された。
- ロシア海域でのロシア漁船による漁獲量の 4 分の 1 以上 (26.8%) が、米国に輸出される前に中国に出荷されると推定されている。
- ロシアの IUU 漁業由来の水産物が流通することによって、他国の水産業に経済的な損害を与えていると考えられている。例えば、ロシア産スケソウダラが大量に中国を経由して流通することで、ヨーロッパにおける米国産スケソウダラの価格が下落していると考えられている。
- 米国の最大の水産物輸入元は中国 (年間平均約 535,000 トン) である。インド、チリ、インドネシア、ベトナム、タイも米国の主要な水産物輸入元であり、米国はこれらの国から、2015 年から 2019 年までの各年にそれぞれ 10 億ドル以上、14 万トン以上の水産物を輸入している。

## ■ 中国

- 中国が IUU 水産物の最大の輸入元と推定されている (重量ベース)。
- 中国からの IUU 水産物の輸入金額は、2019 年は約 2 億 430 万ドルと推定され、米国の中国からの水産物輸入量の 17.0%を占める。
- 太平洋全域やアフリカや南米に近接する大西洋などの世界各地で、中国の遠洋漁

業船団 (DWF) の漁船の多くが IUU 漁業と関係していると考えられている。さらにいくつかの報告書では、これらの漁船の過酷な状況や強制労働の事例が指摘されている。

- 米国国務省の「2019 Trafficking in Persons Report」によると、中国は人身売買の Tier3 国とされている。さらに、2020 年、米国労働省 (USDOL) は、中国産の水産物を「2020 List of Goods Produced by Child Labor or Forced Labor」に追加。中国の遠洋漁業の一部の漁船で、多くの人々が船上で強制的に働かされていることが報告されており、そのほとんどがインドネシアやフィリピンからの移民であり、その数は数万人と推定されている。
- 中国の遠洋漁業が、世界中の海域で IUU 漁業に関与している可能性が特に高いと考えられている。中国の遠洋漁業で漁獲され米国に輸出される水産物のうち、アフリカ海域で漁獲されたものの 99% 以上、南米海域で漁獲されたものの 35% 以上、アジア海域で漁獲されたものの 23% 以上が、IUU 漁業由来であると推定されている。
- 中国市場や水産加工業界では、IUU 漁業によって入手された水産物の輸入が多く見られ、その影響を受けやすいと考えられている。

#### ■ 米国の漁業者への影響

- 米国市場からの IUU 輸入水産物を排除することは、米国の商業漁業者にプラスの効果をもたらす、すべての対象魚種について、米国内での魚価、水揚げ量、漁業収入が増加すると推定される。
- IUU 輸入水産物を排除することで、米国の商業漁業収入は合計で 6,080 万ドル増加すると推定される。漁業収入が最も増加する漁業は、エビ、ベニザケ、メバチ、イカを対象とした漁業である。
- IUU 水産物を排除することは、漁獲制限の上限付近まで漁獲されている魚種の価格に影響を与えると考えられる。これには、マダイ、大西洋タラ、マスノスケ、シロザケ、ギンザケ、大西洋メバチ、太平洋クロマグロ、太平洋イワシ、エビ、大西洋サバなどが含まれる。
- IUU 輸入水産物を排除することは、米国の漁業者の雇用にもプラスの影響を与える。雇用効果が期待できる漁業の中で、最も多くの雇用を生み出したのはロブスター漁業であった。

#### ■ IUU と強制労働

- 不適切な監視・管理・取締り (MCS) システム、遠隔地での漁業、貧困、国のガ

バランスの不備などは、漁業管理規制の違反を助長するだけでなく、違法労働が行われる可能性を高めることになる。

- 特に、人身売買や強制労働は、漁業管理規則違反や、文書詐欺、汚職、脱税などの関連犯罪との関係も指摘されている。違法行為を行うことでコストを削減し、利益を上げようとする IUU 漁船は、同様の方法で摘発を免れ、水揚げされた水産物を世界のサプライチェーンに流通させている。例えば、外洋や港内での積み替え、便宜置籍船の利用、長期の遠洋漁業（自国の EEZ 外での漁）などが挙げられる。
- SIMP（NOAA の水産物輸入モニタリングプログラム）は、魚種ベースであることから、その適用効果が想定と異なる・変化する可能性が懸念される。例えば、SIMP 対象のマダラが SIMP 対象外のスケトウダラに置き換わるなど、代替可能な類似魚種に調達が置き換わり、その結果、SIMP の適用効果において想定とのギャップが生じる可能性がある。業界関係者によると、このような魚種間のギャップや、外国人や二次加工業者の増加などにより、SIMP の効果が一部低下していると言われている。